

未来に伝える伊勢原の文化財

11月1日～7日は文化財保護強調週間

【写真上から】大山阿彌陀神社の像(市指定重要文化財)、「三念所」多神社の「手」(市指定文化財)、「宝城坊本堂」(国指定重要文化財)

長い年月の中で育まれてきた、市民の共有財産である文化財。市内には、国・県・市の指定文化財が合わせて65件、国の登録文化財が合わせて14件あります。年代は縄文時代から昭和まで幅広く、指定数が多い日向宝城坊(日向薬師)を筆頭に、寺や神社に関わるものが多いのが特徴です。この秋は、伊勢原の「たからもの」が語りかける歴史に、耳を傾けてみませんか。

国教育総務課



「文化財」ってどんなもの？

人々の生活の中で生み出されたものや、その背景となった自然環境のうち、歴史的・学術的価値が高いものを言います。

多くの人がイメージする寺の建物や仏像などは「有形文化財」に区分され、これらが大半を占めます。他に、演劇や工芸技術(無形文化財)、地域のお祭り(民俗文化財)、遺跡や動植物(記念物)、地域のなりわいを表す景観(文化的景観)や街並み(伝統的建造物群)などがあります。

「人間国宝」は重要無形文化財の技術などを持つ人の通称で、これも文化財の一種です。

「登録」の違いは？

文化財保護の制度は、大きく「指定」と「登録」の2種類に分けられます。指定は、特に重要な文化財を国や地方公共団体が厳選・保護する制度です。許可制などの強い規制と補助金などにより、手厚く保護します。

登録は、届出制や指導・助言などで緩やかな保護を行うもので、従来の指定制度を補完し、将来指定されることも想定しています。

新たに4件を市の文化財に

市教育委員会は、市文化財保護審議会の答申を受け、10月23日付けで新たに2件を市指定文化財に、1件を市登録文化財に決定しました。

また、平成29年3月に市登録文化財となつた「大山道の道標」に5基を追加し、計14基を有形

民俗文化財に登録しました。

今回、指定・登録したのは、いずれも日本遺産「大山詣り」の構成文化財や大山に関連するものです。日本遺産を通じて、伊勢原の歴史的魅力を発信し、地域の宝を次世代へ継承していくことが重要です。

日向薬師の「おびんずるさま」 木造寶頭盧尊者坐像

市指定文化財(彫刻)
所在地 日向宝城坊



宝城坊本堂内に安置され、触れることもできる

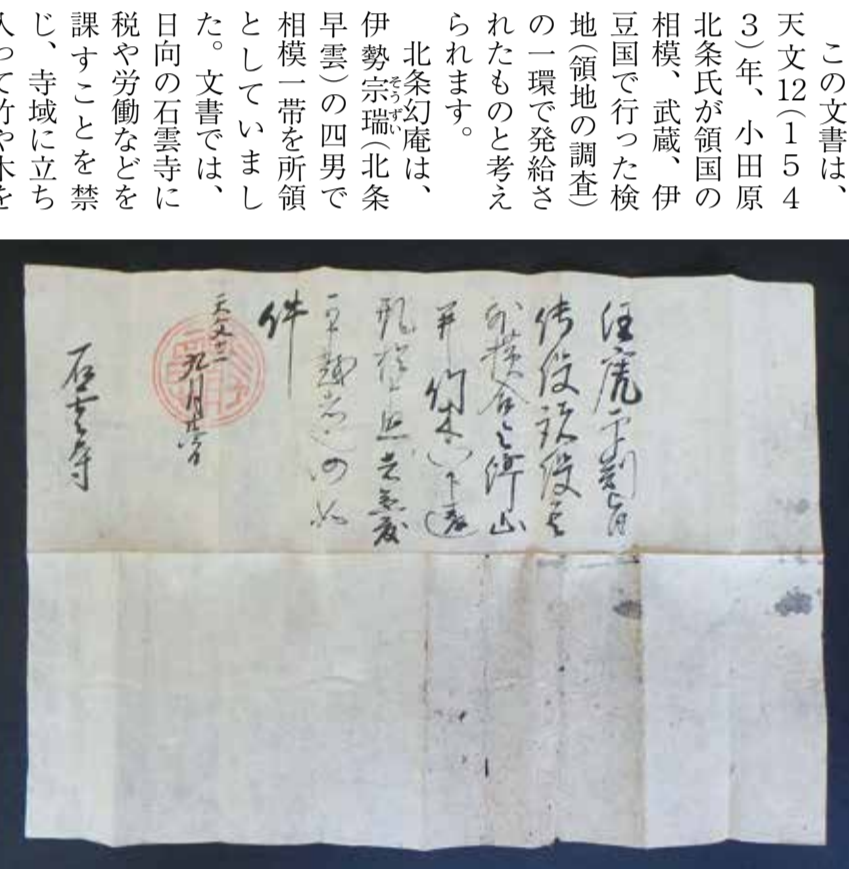
寶頭盧は釈迦の弟子で、特に高位の者を指す十六羅漢の一人にも数えられます。像をなでると病気が治るといふ「なで仏」の風習が広まり、古くから「おびんずるさま」として親しまれてきました。

昭和56年の調査では、室町時代中期の作とされましたが、その後の調査研究により、制作時期はさらにさかのぼり、鎌倉時代初期と判明しました。宝城坊の仏像では、国指定重要文化財

*僧が説法などの際に持つ仏具

希少な印にも注目 北条幻庵印判状

市指定文化財(古文書)
所在地 日向石雲寺



この文書は、天文12(1543)年、小田原北条氏が領国の相模、武蔵、伊豆国で行った検地(領地の調査)の一環で発給されたものと考えられます。北条幻庵は、伊勢宗瑞(北条早雲)の四男で相模一帯を所領としていました。文書では、日向の石雲寺に税や労働などを課すことを禁じ、寺域に立ち入って竹や木を伐採する者がいたら必ず報告するように命じています。

石雲寺には、手書きの写しも残っています。江戸末期から明治初年にかけて、印判状の提出が求められた際の備えに作成したとされ、こちらも当時の社会状況を知る上で重要な資料と言えます。

戦火の記憶を受け継ぐ 青い目の人形

市登録文化財(歴史資料)
所在地 大山小学校



現在着ている洋服は新しいもの

日米関係が悪化しつつあった昭和初期、親善目的でアメリカから日本に贈られた人形です。昭和4年、アメリカの子どもたちから1万個以上が全国の小学校などに配られ、大山小学校には「ルース・ジェーン」と名付けられた少女の人形がやって来ました。やがて太平洋戦争が始まると、その大半が処分されてしまい、国内に現存するのは328体のみです(平成22年時点)。

「青い目の人形」の多くは、おがくずを膠で固めたコンポジション製ですが、これは頭部と腕が磁器製のビスクドールです。背中の刻印(写真A)から、日本のモリムラ・ブラザーズ(現ノリタケ・カンパニー)が大正時代の一時期、輸出していたものと判明しました。現存するものうち、ビスクドールは3点ありますが、日本製はこの1体のみ。日本から輸出された人形が「里帰り」した珍しい例と言えます。

同校には他に、「大山校」と焼印されたガラス扉の木箱(写真B)や椅子、ワンピース(写真C)なども残されています。いずれも、昭和期の歴史を語る貴重な資料です。



(B)木箱に焼印された「大山校」の文字



(A)背中に刻印されたロゴマーク



(C)オリジナルのワンピース

大山詣りの道しるべ 大山道の道標(5基)

市登録文化財(有形民俗文化財)
※平成29年登録分に追加

大山へ向かういくつもの街道は、大山道と呼ばれ、関東各地からの参拝者が往来しました。旅人を案内するため、人々の寄進により街道沿いや辻に立てられたのが大山道の道標です。江戸時代の浮世絵にも「大山みち」と彫られた道標が描かれています。

地元産の日向石で作られ、「大山詣り」が盛んになった江戸時代中期以降に最も多く立てられました。

八幡社境内小稲妻
種類 庚申塔
造立 天保4(1833)年
高さ 72.5cm(角柱山形)
標示 大山道あつき道いやま道



左上に「静意」と刻まれた印が押されている

新屋公民館敷地内小稲妻
種類 道標
造立 明治14(1881)年
高さ 89.5cm(角柱)
標示 大山・飛りつか道あつき道



能満寺境内(三ノ宮)
種類 庚申塔(上部に不動明王坐像あり)
造立 元文4(1739)年
高さ 141.5cm(像38cm 塔身部73cm)
標示 大山道金目道



光明院境内(東大竹)
種類 二十三夜塔(正面に勢至菩薩坐像の浮彫あり)
造立 文久2(1862)年
高さ 64.5cm(角柱)
標示 大山道阿つき道



市内には、他にも多くの文化財があります。市ホームページ「文化財サイト」では、指定文化財や民俗行事の記録映像、日本遺産のプロモーション動画などを紹介しています。ぜひご覧ください。

国登録有形文化財を見学しませんか

普段は見ることができない古民家や神社の内部を特別公開。市の歴史解説アドバイザーが、建物の成り立ちや特徴を分かりやすく説明します。

と き 11月3日(土)午前10時～正午、午後1時～3時◇時間内参加自由

ところ ①山口家(上粕屋862)
②小澤家(西富岡370)
③高部屋神社(下糟屋2202)

交通 駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。バスは、いずれも伊勢原駅北口発です。
①4番バスのりば「大山ケーブル」行きで「メ引(しめひき)」下車徒歩3分
②3番バスのりば「日向薬師」行き、または「七沢」行きで「専修大学入口」下車徒歩5分
③2番バスのりば「愛甲石田駅」行きで「栗窪入口」下車徒歩3分